

19号に載せる予定だったけど変更して「学年だより」に載った感想

## 自分史の取り組みの感想から

自分史をつくる取り組みをしましたが、その中の感想もなかなかよかったですよ。新たな発見がたくさんあったようです。その中からいくつか紹介してみましよう。

まず思ったことは、今までの自分を振り返ってみることはとっても面白いことだと思ったことです。

最初は「いちいち自分史なんて書いてらんネーヨ。」とか思ったけど、ちっちゃいときのアルバムなんか見ているとなんかはまっちゃって少しだけおもしろいなあと思いました。

小学校のときの先生のことを思い出すのもおもしろかったです。むかついたこともあったけど今ではそれ以上に感謝している先生もいます。

今回は今までの成長をふりかえってみたけど、今も絶えず私は成長しているのだから、これからはしっかり気をひきしめて、勉強もスポーツもぜんぶがんばりたいと思います。

ちっちゃい頃を振り返ってみると、またあのころに戻りたいってすごく思うけど、たぶんみんなそう思うだろうからがまんする（何を？）

とにかく、また高校生になって、また自分史を書くことになったら、今度今回のように思い出さなくてもポンポン出てくるような思い出のつまった生き方ができたらいいと思う。

お母さんと小さいときの出来事を話すのはとても楽しかった。兄弟と笑いながら聞いていた。

昔は恥ずかしいことをたくさんしていたなあと知った。

中学校の入ったらあまり遊ぶ時間がないから、小学校の時たくさん遊んでおいてよかったと思った。

私は昔も神経質だったということがわかった。

この自分の歴史を調べて、昔の自分のことがよくわかって、調べてとてもよかった。

久しぶりに自分の昔を見ていて、すごくなつかしかった。

一人一人に自分の歴史はあるんだなあと考えた。この自分史で昔の悪い所

など見つけられてよかった。いいところもあったのでよかった。

小学校の時に入りたいと思っていたテニス部に入れてよかったです。こういう自分の歴史を振り返るといのは大事なんだな一と思った。

赤ん坊のころを調べるときに母子手帳やアルバムを見て、親がめちゃくちゃいろんなことを記録していたことがわかった。そのおかげでいろんなことがわかって、自分の小さいころの思い出がたくさん浮かび上がってきた。そのことは親に感謝している。

自分の小さいころの写真を見て「こんなに小さかったかな。」と思った。「こんなに小さい体から、今までの大きくなるまではめっちゃ大変やったやろーな。」とも思った。これも感謝している。

当時はつらくて、苦しくて仕方なかったことも今では笑い話になっていた。将来の夢や、物事の考え方や、得意なことなどいろんなことが変わってきているということがよくわかった。

つらいときは「もう人生終わりだー。」とか思ったけど、自分の歴史を調べていると自分はわりといい人生をおくっていると思った。

本当はできれば自分史はやりたくなかったけど、やってみると「けっこうおもしろいもんだな。」と思った。自分の歴史をふりかえられるいい機会だった。

赤ちゃんの時のこと調べたの、小学校以来でした。しかも2、3年の時。こんなに詳しく調べてなかった。

クリスマスイブで、ケーキが出たのにお腹痛くて食べられなかった中、生まれた私。お母さんの我慢と一緒に生まれてきたのは幸せ。

お母さんもけっこう忘れてたりして、聞くの大変だったけど、私ってこんなだったんだというのがわかってよかった。

小学校1、2、4年の時の先生の事なんてほとんど忘れてるのに、3年の時だけいっぱいつまってる先生の思い出、書ききれないくらいあるな一って思ったりもしました。

つい最近の5、6年は時が過ぎるのが早かったのに、みんなで過ごした2年間思い出がぎゅっしりつまってるってことも思い出せてほんとによかったと思いました。

これから増えていく未来（後で言うと過去）どんなふうになってるか書き残しておきたいと思います。